

平成 17 年度防災懇談会まとめと区の方

平成 18 年 3 月 30 日

練馬区防災懇談会

練馬区危機管理室防災課

はじめに

平成17年7月から始まった平成17年度防災懇談会は、従来の会議形式を改め、委員自らが区内で活動している区民防災組織の活動に参加、または活動を見学し、感想、課題を報告することとした。

そして、9月、2月の2回の全体会で、各委員の活動報告のまとめを行うこととした。

防災懇談会委員は、平成17年8月から18年1月の間、のべ47回の活動に参加し、報告を行った。

これからの避難拠点活動の活性化のための方策の検討の一助とするため、つぎのとおり報告のまとめを行うこととする。

1 これまでの経過

| | |
|---------|-------------|
| 平成17年6月 | 委員の公募、内定 |
| 7月 | 第1回防災懇談会の開催 |
| 8月～10月 | 訓練参加、見学期間 |
| 10月 | 第2回防災懇談会の開催 |
| 11月～1月 | 訓練参加、見学期間 |
| 2月 | 第3回防災懇談会の開催 |

2 報告書

別紙「訓練等参加報告書」のとおり

3 まとめ

次頁「平成17年度防災懇談会活動のまとめ」のとおり

なお、最終まとめは、第3回防災懇談会において、各委員より出された意見、要望に基づき加筆修正を行い、座長、副座長と事務局により作成する。

4 今後の取り扱い

完成したまとめについては、これからの避難拠点活動の参考として、区内の全避難拠点103校へ配付し、周知を図る。

また、防災課ホームページにおいて発表する。

さらに、練馬区災害対策検討委員会において、避難拠点についての論議を行う際に、参考資料として配付する。

平成17年度練馬区防災懇談会活動のまとめ

平成17年度練馬区防災懇談会は、今年度テーマ「これからの避難拠点運営について」に基づき、避難拠点活動を見学、参加をさせていただきましたが、これらの活動を通じて得られた課題・提案等について、次のとおりまとめ、報告します。

1 避難拠点運営連絡会（以下、拠点という）強化のために

拠点の活動の一端を、このたび、避難訓練を通じて、拝見させていただく機会に恵まれましたことを、御礼申し上げます。どの訓練も、さまざまな工夫が凝らされていて、拠点における皆さまの日々のご努力がうかがえるものばかりでした。

ただ、相対的にみると、一部において活動状況・内容等に温度差が感じられたのも事実です。さらには、今後を考えると、拠点は、その役割が増えるとともに多様化していくことが予想され、より多くの人材が必要になると考えられます。このようなことから、

区、学校、PTAのより一層のご理解とご協力、

より多くの町会・自治会の皆さま、民生委員、幼稚園・保育園や福祉関係施設・近隣の事業者など、さまざまな分野の特技をもった方々と幅広い年齢層の方にも関わっていただけるような工夫、生徒が小中学校を卒業された後も、父母にサポート要員等として留まっていたいただけるような仕組み

等が求められます。さらに、先生方には、児童・生徒の積極的参加を促していただくなど、生徒たちへの防災・減災教育に、さらなるご協力をお願いします。

そして、いざというとき地域に住む者同士が、助け合いのベースとなるのが避難訓練の場ということ、より多くの方にわかっていることも大切となります。

なお、拠点には、責任者をサポートする人員を置くことや、指示系統、役割分担の明確化等を見直されることをおすすめします。

2 拠点の協力・連携、レベルアップのために

いままでは、拠点がそれぞれ独自の努力とペースで、地域の特性を活かした活動をしてきました。区防災全体をみた場合、これからは、一歩進み、近隣の拠点間の協力・連携も求められるようになります。一方、最近では、区により拠点交流会が行われ始めています。このような交流では、拠点間の協力・連携のみならず、個々の拠点のレベルアップや、さまざまな地域の問題を解決する力がつくきっかけとなる等、さまざまな効果が期待できます。区は、今後、ますます拠点の相互交流が活発化するよう努めてください。また、他拠点の訓練見学も、積極的にうながしてください。

各拠点において、過去に実施された訓練のなかで培われた貴重な経験や訓練マニュアル、記録、教訓、資器材のメンテナンスなどは、他の拠点でも共有できるような形にすることが必要です。区にはその仕組みを作っていただくとともに、全拠点にも積極的に文書等を提供・開示していただけるようお願いいたします。通常の訓練のほか、災害時医療訓練や、災害要援護者（外国人、障がいをお持ちの方等）、ペットの訓練や、まちあるきワークショップなど、後々のためにも大変、参考になります。

3 避難訓練の効果を高めるために

実際の訓練では、誰のため、何のための訓練かがぼやけてしまっていたり、内容と目的が合致していないケースがみられました。避難訓練前には、改めて実施に関わるすべての方々（拠点、区、消防署等）により、その対象者、目的、目標がはっきりしているかどうかを見直す必要があります。

さらに訓練当日、個別の訓練について直接、参加者に説明をする担当者は、参加者がその時、その場面で「自分や家族はどうなるか」をきちんと想像・認識し、その後、具体的な防災・減災行動に結び付けることができるよう、個別訓練の背景や意味・意義をきちんとお話しいただくよう、お願いします。

訓練においては、一般参加のみならず、親子で参加したり考えたりできる場、啓発する場も必要です。学校の協力が必須となりますが、授業参観、体育会といった機会の積極的な利用も求めます。そして、1回の訓練における効果を最大限、引き上げるために、参加対象者に応じてより興味ある目標や内容を設定したり、区民全体の防災意識向上をはかるために、防災に興味がない人が多く集まる他イベントとの合同開催を行うといった、さまざまな工夫が望まれます。

練馬区防災懇談会のまとめを受けて

平成17年度練馬区防災懇談会の皆様には、8か月にわたり活動していただき、防災に関して多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。

お忙しい中での報告書の作成は、ご苦労があったかと存じます。重ねて御礼申し上げます。

皆さまからいただいたご意見は、区としましては大変貴重なものと捉えており、今後、積極的に活用したいと考えています。

区はこの報告を受けまして、今後の避難拠点活動について、つぎのとおり考え方をお示しします。

1 避難拠点の運営について

区としては、地域の出来るだけ多くの方に、何らかの形で防災に関わっていただき、地域防災力の向上につなげていきたいと考えています。

今後、地域の防災活動に参加していただける方を増やしていくため、つぎの方策に取り組みます。

- ・ 地域で行われるイベントや集会において、防災資器材の活用を働きかけ、防災に接する機会を増やすことに努めます。
- ・ 集客効果の大きいイベント、学校防災訓練、授業参観などに、避難拠点訓練を合同開催していただくよう働きかけ、訓練の参加者が拡大するように努めます。
- ・ 区報や街頭掲示板等を使用した従来の広報に加え、インターネットの掲示板、電子メール等を活用するなど、より多くの方に訓練情報を知っていただくように努めます。

2 情報の共有について

区は、地域には様々な特性や事情があることを前提に、住民自らが考え、話し合いを行い、実践するという考え方のもとで避難拠点の運営を支援してきました。

その結果、地域により様々な取り組みがなされています。

区は今後、過去に行われた訓練の記録等の風化を避けるとともに、避難拠点の活動をさらに充実・活発化させるため、つぎの方策に取り組みます。

- ・ 避難拠点交流会の充実を図り、地域での情報交換の機会を増やし、避難拠点訓練等における相互協力の推進を図ります。
- ・ 避難拠点運営連絡会の皆さんが自由に交流でき、必要な情報を発信したり、提供を受けたりできる、情報の相互交流を図れる場を提供できるよう研究していきます。

3 訓練の実施について

訓練は一般の区民の方が、気軽に参加していただける貴重な機会であり、この機会を捉えて、より防災意識の啓発を行っていくことは大変に効果的であると考えています。

区は、より効果的な防災訓練を実施していくため、つぎの方策に取り組みます。

- ・ 住民の皆さんが訓練の意義を自ら見出せるような、ワークショップや図上訓練など、「考える訓練」を実施するよう働きかけ、区は積極的に協力していきます。
- ・ 訓練の際には、訓練の意義を考えるきっかけを作るために、訓練項目ごとに意義を説明し、理解を促すとともに、会場に資料を用意し、訓練終了後、家庭での話し合いが出来るようにしていきます。